

取組【19】	観光地づくりを担う人材の発掘・育成		
観光地の資源特性 ◎：優先的に実施 ○：基本的に実施 ★：特に配慮して実施		実施主体 （特に効果が高いもの）	
<input type="radio"/> 街並み <input type="radio"/> スキー場	<input type="radio"/> 都市 <input type="radio"/> 農山村地	<input type="radio"/> 社寺 <input type="radio"/> 温泉	<input checked="" type="radio"/> 自然風景 <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 観光推進組織 <input type="checkbox"/> 民間事業者
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">取組の狙い</div> <p>○観光地づくりのキーパーソンとなる人材を発見し、知識獲得のための講義や他地域への視察を実施することで、地域づくりを担う人材を育成する。</p>			
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">取組推進・障害打開のポイント</div> <p><b>○将来に向けた投資としての人材発掘・育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地づくりを進める際に必要な条件となるのが中心となって取組を推進する人物（キーパーソン）の存在である。このキーパーソンは、地域の中から発掘するだけでなく、必要に応じて外部から招聘することも視野に入れる必要がある。</li> <li>・キーパーソンに限らず、人材育成は効果が短期間で現れるものではないので後回しになりがちだが、観光地づくりを進めるために最も重要となるのが人材であり、人材の成長なくしては魅力ある地域となることはできない。施設や景観の整備への投資と同様に、人材育成を「将来への投資」と考えることが重要である。</li> <li>・地域づくりを推進する原動力となる人材を育成するために、その地域の特性を捉えた「〇〇塾」や「〇〇大学」を定期的、継続的に開催することで、地域づくりに必要な人材を発見し、育成することも効果的である。</li> <li>・地域住民に「自分たちが地域づくりを担う」という意識を持ってもらうために、観光資源が持つ魅力を引き出せる人材を地域から発掘し、プログラム等に効果的に組み込むことも重要である。例えば、遠野の「まぶりっと制度」では、観光資源である「昔話」や「民族文化」を、「お年寄りの知恵」を活用して解説することによってさらに魅力あるものになっている。</li> <li>・地域づくりに対する住民意識を向上させるために、様々な地域を視察することも効果的である。その際には、海外も含めて、自分の地域と同じ条件の中で取り組んでいる地域を対象とすることが重要である。視察を実施することで得られる効果としては、行動を共にする中で視察メンバー間に連帯意識が生まれることにより、地域づくりに対する取組がより活発になるといった面も期待できる。</li> </ul> <p><b>○地域のおもてなし意識（ホスピタリティ）の醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の商工会、旅館組合等の組織が連携し、おもてなし研修等を実施することで、地域としての統一したホスピタリティのあり方を形成することが重要である。その上で、個別の分野（旅館業等）に特化した内容のおもてなしを実施することが効果的となる。</li> </ul>			

## 期待される効果

- 地域づくりを実際に推進する人物の発見と育成に繋がる。
- 地域の人材を活用することによって、観光資源により魅力を与えることができる。
- 継続的な各種講習会、セミナーの開催により住民の地域づくりに対する関心を醸成することができる。

## 連携が必要な取組

- 周辺地域との広域的な連携（No.18）
- 観光地づくりに関する協議・連携組織の育成（No.20）
- 観光地としての地域経営を担う組織の設立（No.21）
- 他の取組と適宜連携

## 参考事例

### ○事例1 東北ツーリズム大学の設立・開催（遠野）

まちづくり、地域づくりの人材育成や都市と農村の交流促進を目指し、各大学と連携して体験学習やツアーを実施している。

<特徴>

- ・遠野での民泊、郷土菓子作り体験や人との交流の機会を創出することにより、地域に愛着を持った人材を育成することに貢献している。

### ○事例2 「まぶりっと」制度（遠野）

遠野ふるさと村において、「まぶりっと」（守り人）と呼ばれる地域のお年寄りが、来訪者に昔話やわら細工を教えることにより民族文化の体験機会を創出している。

<特徴>

- ・来訪者だけでなく、地域のお年寄りの知恵や経験を生かすことによって、地域住民の生き甲斐の創出と人材育成、来訪者への民族文化の体験機会の創出の両面を活かすことに成功している。

### ○事例3 内子町美しい景観建造物デザイン賞表彰実施要項の制定（内子）

内子町では伝統的建造物群保存地区以外の地域で、街並みに配慮した景観整備への取組に対して、表彰制度を設け、地域全体で街並みに配慮することで住民の意識向上を図っている。

<特徴>

- ・表彰対象を所有者、施工者、設計者の3者とすることにより、整備に関わったすべての人々の街並みに対する意識の向上を図ることに成功している。

### ○事例4 「内子町知的農村塾」開講（内子）

農家を対象として内子町がスタートさせた制度で、全国各地から講師を招き、毎年5回の講習会を開催している。海外への視察も実施しており、内子町の農業振興、人材育成の基盤となっている（参加人数は多いときで60名程）。

<特徴>

- ・内子町の基幹産業は農業であるが、地理的条件やタバコ産業の民営化の波により農家をやめる者も多くなっていた。しかし現在では、産直施設である「フレッシュパークからり」のスタートを契機に農家の女性が主体となって農業をもり立てている。それらの体制の基盤となっているのが、「内子町知的農村塾」である。